

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 26 年度 第 3 号 2015 年 1 月 23 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

平成 26 年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（3 次調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2015 年 1 月 13～17 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 50～500m の海域

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期を下回った。
- ・ 魚群反応の強い海域は苫小牧沖。
- ・ 反応の比較的強い水深は 250～300m（海底に張り付いた反応は 150～250m 中心）。
- ・ 漁獲物の体長（尾叉長）は、40～50cm が主体であった。
- ・ 漁獲物の成熟状態は、メスでは完熟卵（水子）を持つ個体の割合が高かった。

1. スケトウダラとみられる魚群は、主に白老沖から苫小牧沖にかけて分布していました。その中でも、胆振海域の 176、179 海区に強い反応がみられました（図 1・2）。
2. 海域平均の反応量は、前年度を下回り、3 次調査が開始された 2004 年度（調査は 2005 年 1 月）以降では最も低い値となりました（図 3）。
3. 魚群反応は、水深 50～500m の広い範囲で観察されました。特に水深 250～300m 前後にかけて比較的強い反応がみられましたが、海底に張り付いた反応は水深 150～250m 付近が中心となっていました（図 2・4）。
4. 苫小牧沖（J 線の水深 250m 付近；図 1）で行ったトロール調査の結果、漁獲物は尾叉長 40～50cm の成魚が主体となっていました（図 5）。成熟状態を調べたところ、雌は完熟卵（水子混じり）を持った個体の割合が高くなっていました（図 6）。

今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。

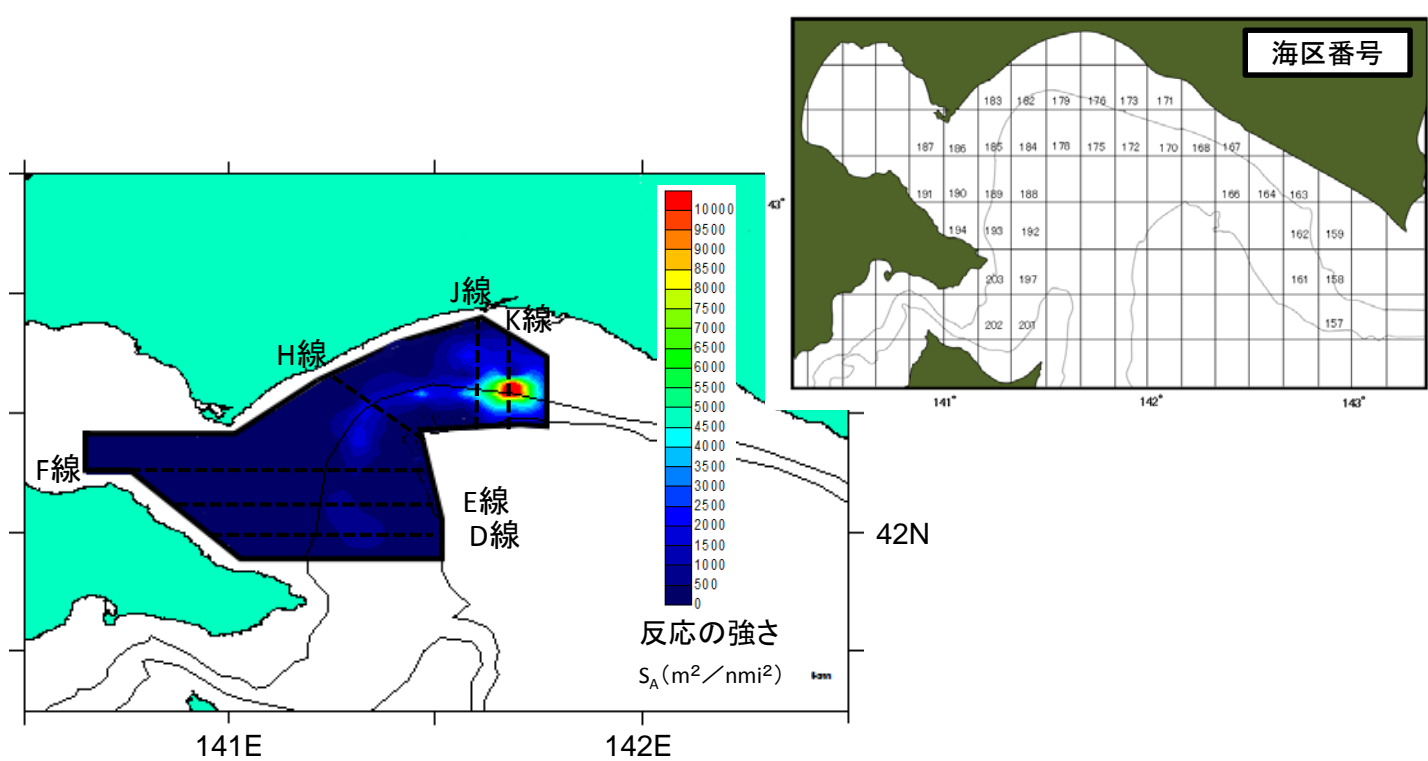


図1 調査海域における魚群の分布

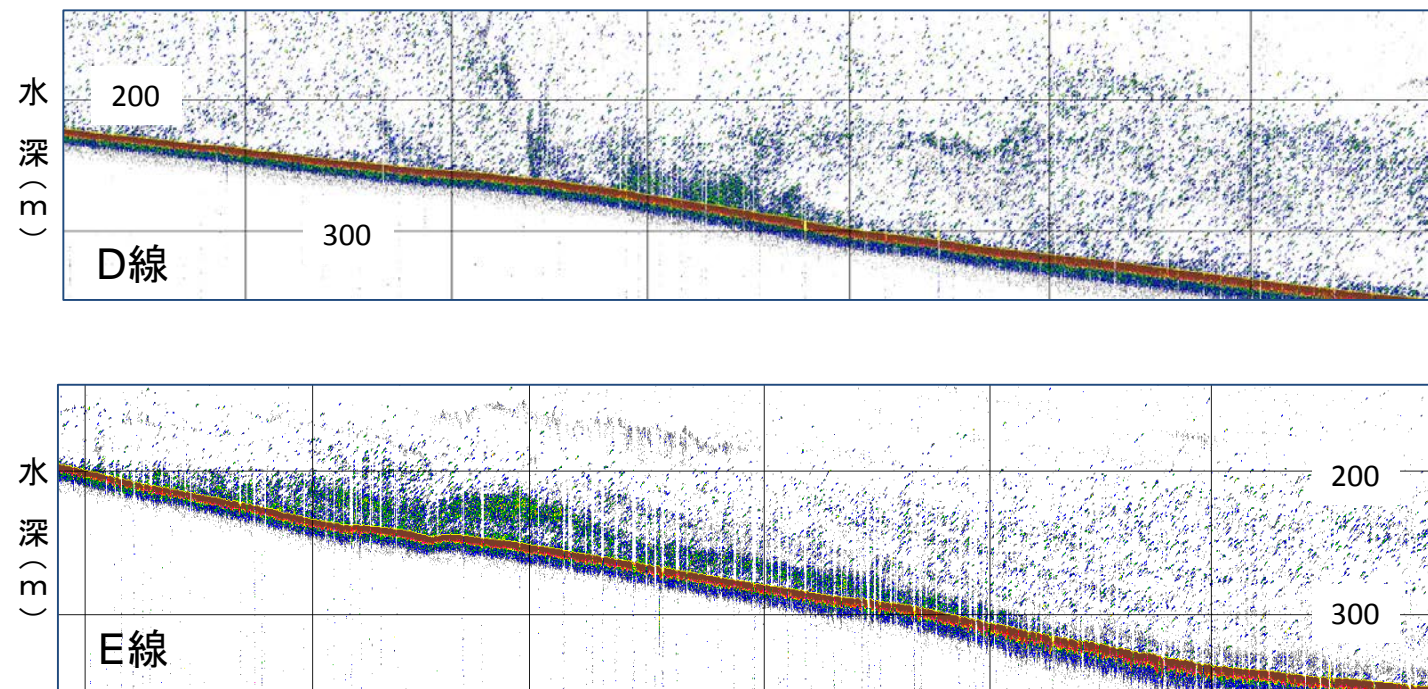


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル、鉛直ラインの間隔は100m

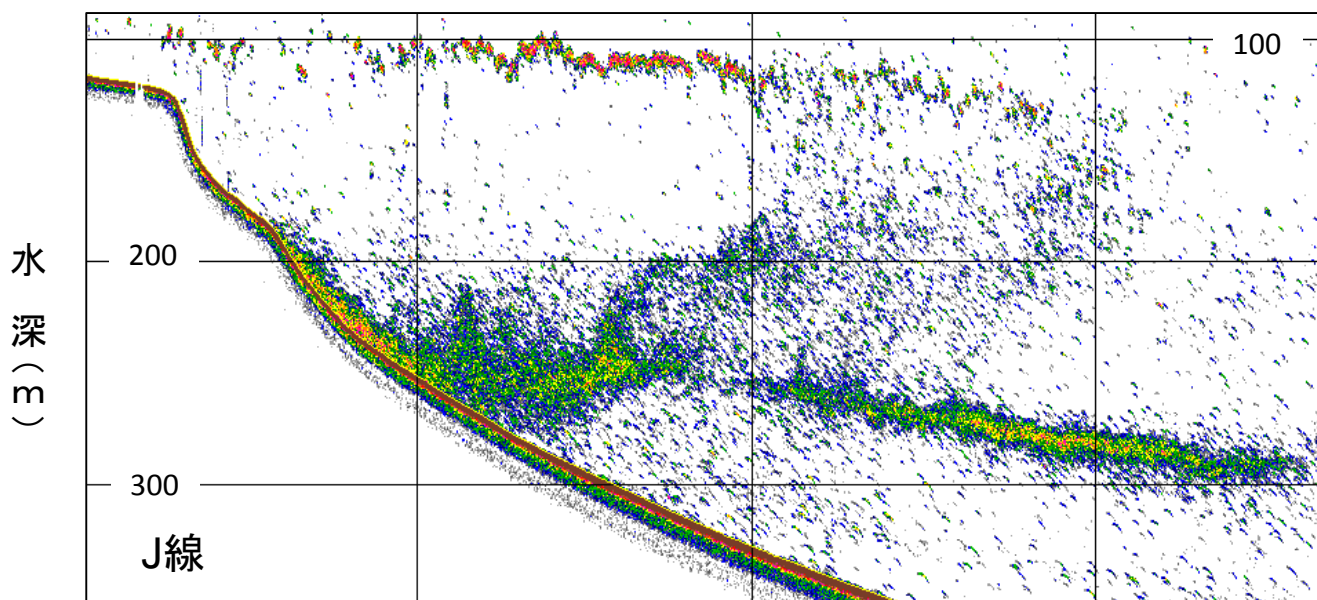
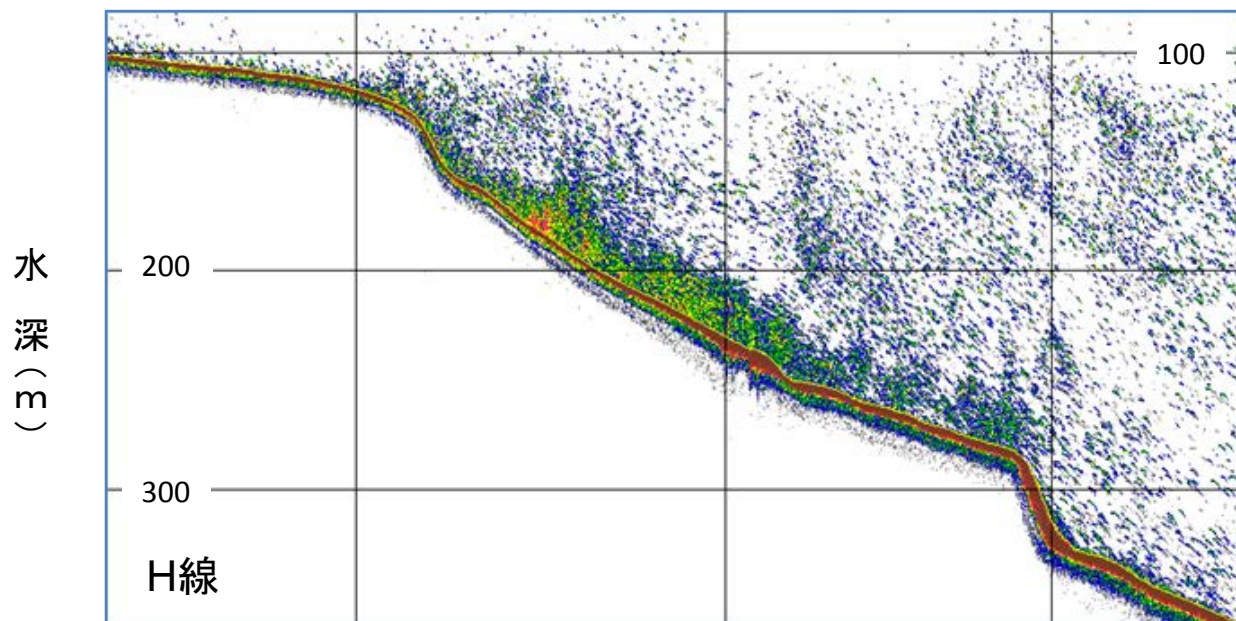
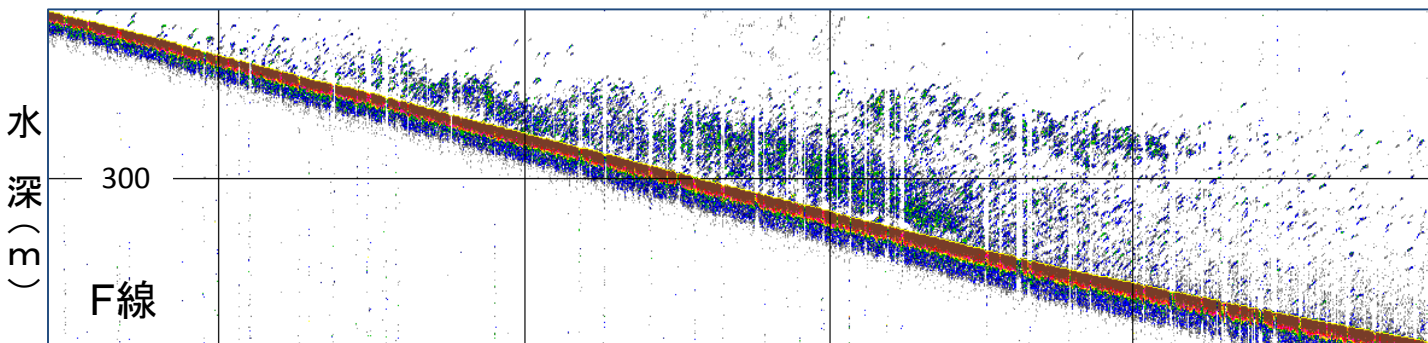


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

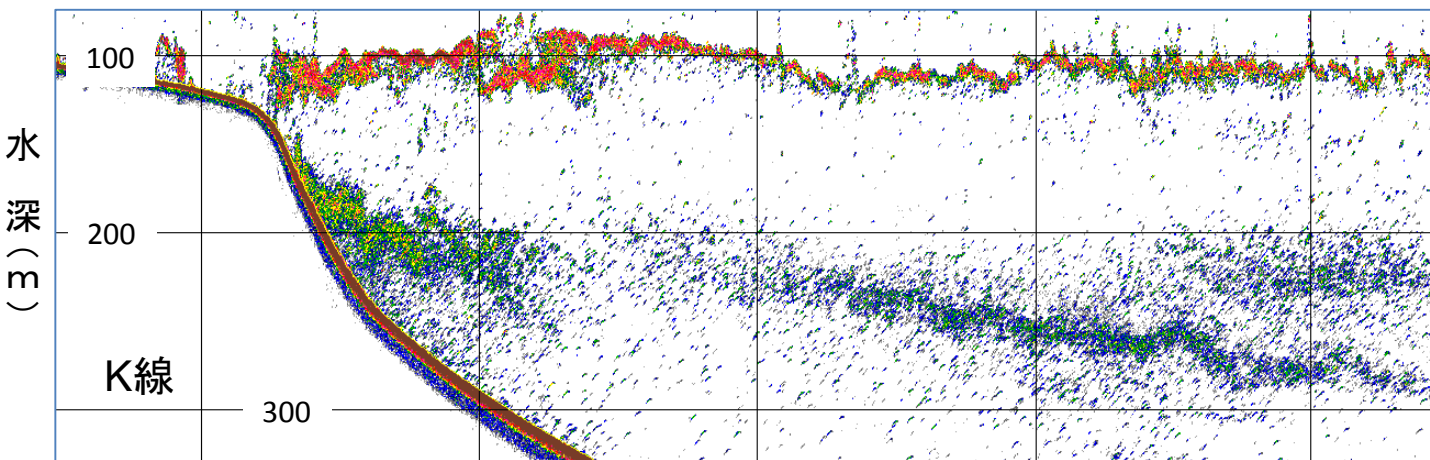


図2-3 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

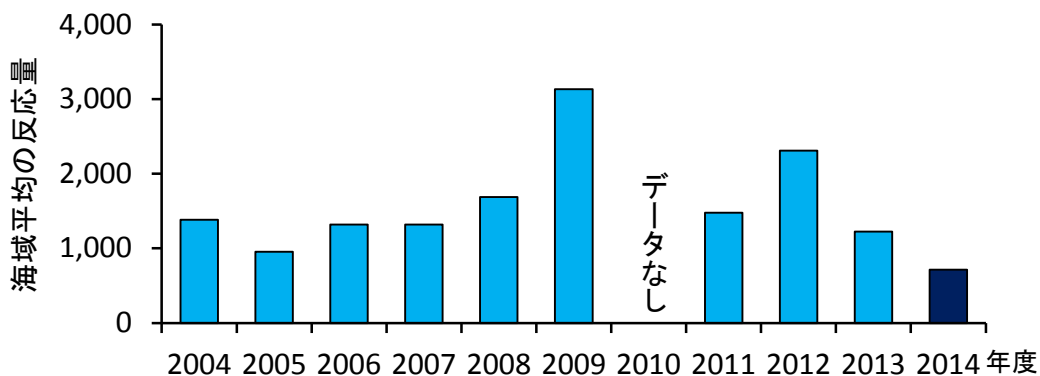


図3 海域平均の魚探反応量(S_A)の推移

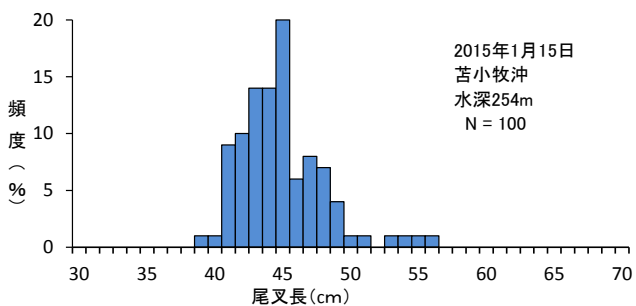
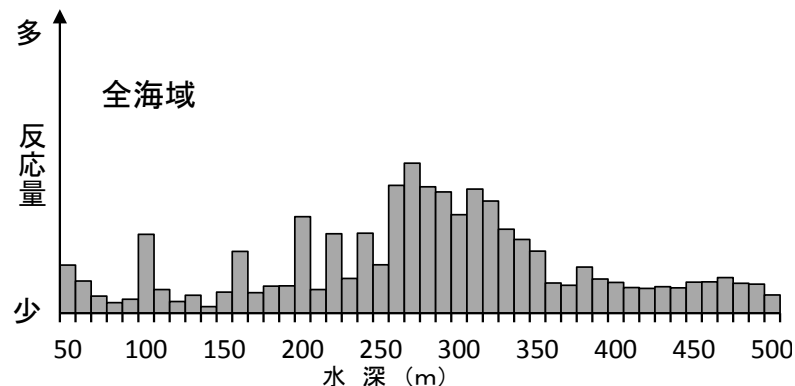


図4 水深別の魚探反応量

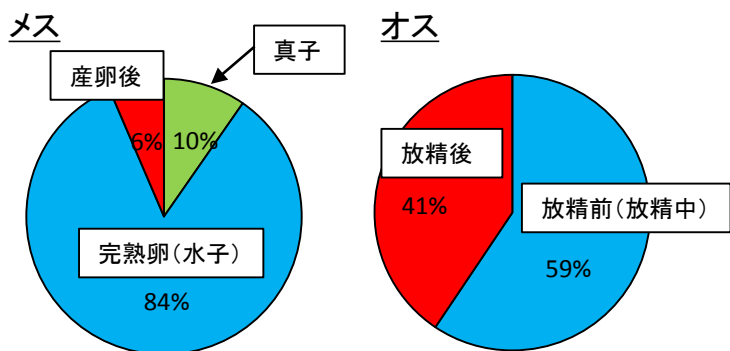


図6 漁獲物の成熟状態(苦小牧沖水深254m漁獲物)

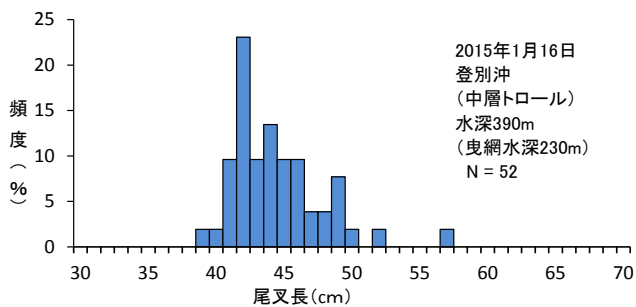


図5 漁獲物の体長組成